

第107回総合科学技術会議議事録（案）

1. 日時 平成25年3月1日（金） 10：56～11：34

2. 場所 総理官邸4階大会議室

3. 出席者

議長 安倍 晋三 内閣総理大臣

議員 菅 義偉 内閣官房長官

同 山本 一太 科学技術政策担当大臣

同 新藤 義孝 総務大臣

同 麻生 太郎 財務大臣

同 下村 博文 文部科学大臣

同 茂木 敏充 経済産業大臣

議員 久間 和生 常勤

同 原山 優子 常勤

同 青木 玲子 一橋大学経済研究所教授

同 内山田竹志 トヨタ自動車株式会社取締役副会長

同 中鉢 良治 ソニー株式会社取締役代表執行役副会長

同 橋本 和仁 東京大学大学院工学系研究科教授兼先端科学技術研究センター教授

同 平野 俊夫 大阪大学総長

臨時議員 甘利 明 経済再生担当大臣 兼 内閣府特命担当大臣（経済財政政策）

臨時議員 稲田 朋美 内閣府特命担当大臣（規制改革）

4. 議題

（1）総合科学技術会議の今後の進め方

（2）成長戦略に資する事例紹介（ロボットスーツHAL）

5. 配布資料

- 資料 1 - 1 総合科学技術会議議員名簿
- 資料 1 - 2 総合科学技術会議運営規則
- 資料 2 科学技術イノベーション政策の現状と課題について（山本大臣提出資料）
- 資料 3 総合科学技術会議の今後の検討課題について（有識者議員提出資料）
- 資料 4 世界初医療ロボットによる未来開拓（山海教授プレゼン資料）
- 参考資料 1 平成25年度科学技術関係予算（案）の概要について
- 参考資料 2 平成25年度科学技術関係予算（案）におけるアクションプラン・重点施策パッケージについて
- 参考資料 3 科学技術イノベーション政策の現状と課題について（参考資料）（山本大臣提出資料）
- 参考資料 4 「科学技術イノベーション促進の為の仕組みの改革について－イノベーション創出環境の革新－」（科学技術イノベーション政策推進専門調査会 平成24年12月）
- 参考資料 5 第105回総合科学技術会議議事録（案）

6. 議事

【山本科学技術政策担当大臣】

それでは、定刻を少し過ぎましたが、第107回の総合科学技術会議を開会致します。

先ず、国会において御承認頂き、先程安倍総理から任命されたばかりの4人の新議員を御紹介致します。

久間和生議員です。

原山優子議員です。

内山田竹志議員です。

橋本和仁議員です。

このように本日、新議員が着任され、産学の第一線で御活躍の先生方による最強の布陣が整い、総合科学技術会議が再スタート致します。

また、本日は臨時議員として甘利経済再生担当大臣及び稲田規制改革担当大臣が御出席です。

なお、大西議員は御欠席でございます。

次に、配付した総合科学技術会議の運営規則の資料を御確認頂きたいと思っております。

会議における審議の内容等については、会議終了後に私の方から記者発表するとともに、原則4日以内に議事要旨を公表することとさせていただきます。

資料2の科学技術イノベーションに期待される役割と我が国の現況について御説明をしたいと思います。

科学技術イノベーションは、経済成長の原動力、活力の源泉であり、社会のあり方を大きく変える力を持っています。

戦後の我が国を顧みても、急速な経済成長を牽引するとともに、石油危機等、数々の危機克服の為にブレイクスルーを用意し、時にピンチをチャンスに転換させた鍵こそが科学技術イノベーションでした。しかしながら、近年では科学技術イノベーション面で国際競争力が低下し、我が国産業の存在感が薄れているとの懸念が高まっています。

2ページ以降の図表では、我が国産業が世界シェアを失いつつあることや科学研究の分野でも地位が低下していることなどが示されております。

4ページを御覧下さい。こうした中で、科学技術イノベーション政策に今日期待される役割はますます増大しております。

人口減少やグローバル経済競争、エネルギー環境制約等、我が国を取り巻く経済環境が中長期的に厳しさを増す中で、足下でも長引くデフレと円高で、我が国経済の体力が減退し、社会全体が疲弊しており、このままでは我が国経済社会全体が失速してしまいかねない、異例の緊急事態に陥っております。

この難局を打開する上で、経済政策はこの国の現在の形を左右することは出来ませんが、この国の未来の形を決める鍵は、科学技術イノベーションです。そうした科学技術イノベーションの重要性を踏まえ、海外諸国では既にイノベーションを国家戦略に位置付けて重点的に取り組んでおり、世界は今や知の大競争時代に入っています。

翻って我が国の政策について見ると、現在、総合科学技術会議のもと、第4期科学技術基本計画に基づき、各省庁が施策を実施しておりますが、課題や問題点も少なからず指摘されていることから、ここで科学技術イノベーション全体、政策全体を再点検し、見直しを進めたいと考えています。

具体的には、3つの視点から検討する必要があります。

第1に政策の推進体制の問題として、総合科学技術会議の司令塔機能のあり方の再点検、第2に国民の目線で見えた再点検、第3には学界、産業界の現場の目線で見えた再点検です。

このうち1点目の総合科学技術会議の司令塔機能については、安倍総理も昨日の施政方針演

説で、世界で最もイノベーションに適した国をつくり上げる決意を示され、その司令塔が総合科学技術会議であると明言されています。

そして、その司令塔機能について、省庁縦割り打破を図る為、権限、予算両面において、これまでにない強力な推進力を発揮出来るよう、抜本的な強化策を具体化するように、総理から私に既に御指示を頂いておりまして、この方針に沿って、政策の推進体制について構築すべく、この会議の場で議論してまいりたいと思います。

更なる具体的な議論は、この後有識者議員から提出資料に基づいて提案があると思いますので、そちらに譲ることとしたいと思います。

それでは、総合科学技術会議の今後の検討課題について、有識者議員の提言を中鉢議員より御説明頂きたいと思います。

【中鉢議員】

中鉢でございます。

現政権になりまして、また本日新たに任命されましたメンバーも加わりまして開催される最初の本会議でございます。資料3を用いまして、皆様と問題意識を共有させていただきます。

我が国の経済社会は、異例の緊急事態に直面しておりますが、この難局を打破し、国際競争に打ち勝つ上で、科学技術イノベーションが果たす役割に対して、多くの期待が集まっていることは、只今山本大臣の御発言の通りでございます。

オバマ大統領の一般教書演説では、マニュファクチャリングという言葉に何度も触れ、強い経済の構築、雇用創出への意欲を示し、また日本から雇用を取り戻しつつあるとも言っております。また、隣国の朴（パク）槿恵（クネ）大統領は就任演説で、科学技術、ITによる経済復興、創造経済を述べております。そして、昨日の総理の施政方針演説では、成長戦略の根幹にイノベーションを据えていくことを力強く述べられました。科学技術イノベーションに携わる者として、大変に心強く思うと同時に、改めて課せられた役割に身の引き締まる思いでございます。

こうした中、昨日まではフルメンバーではございませんでしたが、我々有識者議員は山本大臣に多くの時間をとって頂き、科学技術イノベーション政策のあり方を議論してまいりました。そして、産学政、各々の立場を超え、今年が経済再生元年であり、科学技術イノベーションが持つ潜在力をフルに発揮させることで、危機を払拭するとの認識で一致致しました。

2ページ目の「2. 科学技術イノベーション政策のあり方」には、科学技術イノベーション

政策を推進するに当たって必要となる6つの原則を取りまとめております。

ここで特に強調したいことは、総合科学技術会議がイニシアティブを発揮し、政策を川上から川下まで一気通貫でマネジメントし、経済成長に繋げることであります。

「3. 本年前半に取り組むべき項目」には、これら6つの原則を踏まえ、本年半ばまでに総合科学技術会議が集中的に審議すべき事項を3点挙げております。

先程御発言のありました山本大臣の3つの視点をもとに、1つ目は科学技術イノベーション政策の長期ビジョンを見直し、その実現に向けた短期実行プランを取りまとめるべきであります。

2つ目は、日本経済再生本部への提言を通して、科学技術イノベーションの観点から、成長戦略の策定に貢献すべきと考えます。

3つ目は、総理が強い意欲を表明されておりますように、総合科学技術会議の司令塔機能発揮の為の科学技術イノベーション政策の推進体制の抜本的強化策について、検討すべきと思います。ともあれようやく有識者議員のメンバーが揃ったばかりでありまして、時間的制約もあり、新しい議員の意見が十分反映されているとは言えませんが、資料3をたたき台として、更に検討を重ねていくべきと考えます。

私からは以上でございます。

【山本科学技術政策担当大臣】

有難うございました。

それでは、御自由に御意見を頂きたいと思っております。御発言は要点を簡潔におまとめ頂くようお願いを致します。

橋本議員、どうぞ。

【橋本議員】

新任で今日から議員を務めさせていただきます橋本でございます。どうぞ宜しくお願い致します。

これまで私は研究現場で、現場の情報や意見がなかなか政府の中枢に伝わらないということに対して、ジレンマを非常に感じておりましたが、今回このような立場を頂きましたので、是非現場の情報をお届けし、また政府の御意向を現場に繋げるという、そういう役割をしたいと思っております。

先ず、最初に安倍総理にお礼を申し上げます。お忙しい中、本日この会議に御出席頂きまし

たことを、大変有難いと思っております。我々科学技術に携わる者にとりまして、総理がこの会議の重要性を強く認識して下さっていることは、大変力強いことであります。

私は、産業競争力会議の議員も拝命しておりまして、そちらの会議でも既に、安倍総理、そして甘利大臣の非常に強いご意向を受け、山本大臣の指揮のもと、科学技術イノベーション政策についての色々な議論が進められています。

総合科学技術会議におきましては、資料3の3ページ目にありますように、科学技術イノベーション総合戦略について長期的なビジョンを持つことが重要です。その一方で、今は短期的なアクションが求められているという状況もあり、それに対する議論の必要もあります。

「(2) 成長戦略策定への参画」では、政府のターゲットポリシーとして、4つの目標が挙げられています。この中身を産業競争力会議でも議論していくと思いますが、科学技術に対して、我々はエキスパートですので、総合科学技術会議においてもしっかり政策を検討し、産業競争力会議に提案していくべきであると考えます。同時に、産業競争力会議からも政策提案を頂き、この会議で議論する、というようなことも重要であります。私は2つの会議の連携を図るという役割を仰せつかっておりますので、その役を一生懸命務めさせて頂きたいと思っております。是非議員の皆様方とともに、大卒の議論に加えこの中身の議論もいたしまして、その結果を産業競争力会議に繋げていく、ということをしてしたいと思います。

さらに、産業競争力会議で総理は繰り返し、総合科学技術会議の司令塔機能の強化について発言されています。これは我々にとって千載一遇のチャンスであるとともに、大変重い使命だと感じております。この辺も是非総合科学技術会議において議論を進めていきたいと思っております。私は2つの会議の繋ぎとして力を尽くしたいと思いますので、どうぞ宜しくお願い致します。

最後に、総理にお礼を申し上げながらのお願いで申し訳ありませんが、今後も是非この会議に御出席頂きたいと思っております。これまでの会議は、総理に出席して頂けることが少なかったと聞いております。しかし、総理にご出席頂くことによって、総合科学技術会議の立場が大きく変わると思っております。我々も一生懸命務めさせて頂きますので、是非ともお願い申しあげます。

【山本科学技術政策担当大臣】

それでは、平野議員、どうぞ。

【平野議員】

平野です。

総理が科学技術イノベーションを重要視されることは、大変素晴らしいことだと思います。

豊潤な果実を得る為には、種をまいて、苗木を育てる。幹がすくすく育って、根が地面にしっかりと張る。葉が茂り、果実が実る。そして種が出来る。これはどれ一つ欠けてもだめです。

これがうまく循環すること、そしてもっと大事なことは、それぞれのバランスが大事だということです。幾ら幹が太くても、葉が茂っても、根が貧弱なら木は立ち枯れます。さらに肥料、小さな木には小さな木に、大きな木には大きな木に相応しい、肥料が必要です。また種を多くまけばまくほど果実は多く収穫する事が出来ます。

基礎研究や人材育成というのは、種、或いは根です。応用研究や開発研究というのは、幹や葉です。果実の一部は当然種に使わなければ未来はありません。だから、結局これらのバランスを如何にとるべきか、どのような割合で限られた財源を配分するべきか、国力にふさわしい科学技術予算規模は幾らか、社会保障や公共投資とのバランスはどうとるべきか、未来の為に種をどれだけまくか。

司令塔機能というのは、本来これらの案件を高いレベルで行う事です。即ち森全体を見ることだと思います。その上で個々の木、個々の具体的な方策を立案し、実行する必要があると思います。

最後に一言、「人材育成なくして、真のイノベーションはあり得ません。」要素技術がいくらあっても人材がないと、真のイノベーションは起こりません。私が最も強調したいところで

【山本科学技術政策担当大臣】

有難うございます。

原山議員、どうぞ。

【原山議員】

先程総理から辞令を頂きまして、今日はフレッシュマンではなくてフレッシュウーマンの立場で話させて頂きます。

我々に与えられたミッションというのは、総理のリーダーシップのもとに、イノベーション政策、戦略をデザインすること、またそれを実施する為の仕掛け作りをすることだと心得ております。

その為には、総合科学技術会議そのものがどうあるべきかという話になります。司令塔の話もございしますが、3点挙げさせていただきます。

1つは、自らがイノベティブであることが要求されると思います。過去のしきたりにとらわれることなく、新しい仕掛けをどんどん提言していく、新しい仕事の流儀をつくるというのが一つだと思います。

それから、インスパイアリングであることだと思います。それは何かというと、あそこに行くくと新しいアイデアがある。あそこに行くくと発想の転換が出来る。あそこに行きたいというものにしていきたいと思います。

最後になんですが、とはいいつつもプラグマティックでなくてはいけない。実装可能であって、オペレーショナルなものである。先ず、実効性が高いものを提言していくということが3点目だと思います。これを心にしてフル回転したいと思います。

最後ですが、私自身昨年OECDから帰りました。その時なぜ帰ったかという、東北地方の復興ということに何らかの形で役に立ちたいと思ったからです。それに関しても、ここでの議論も相乗効果があるように持っていきたいと思いますので、今後とも宜しくお願い致します。

【山本科学技術政策担当大臣】

有難うございました。

久間議員、どうぞ。

【久間議員】

久間でございます。

総理の施策である産業競争力強化による経済再生と経済成長、これが最も重要な課題と思います。総合科学技術会議の議員全員が認識すべきことは、産業競争力を強くして経済を強くする。それによって財務体制を強化する、国民生活を豊かにするとともに、次の成長のための投資を行う。この好循環をつくるにはイノベーション創出が非常に大切であることを総合科学技術会議の全議員が先ず認識したいと思います。

具体的に、総合科学技術会議のやるべきことは、先ずある一定枠の予算を頂いて、それを用いて、課題解決に向けた世界トップを目指した骨太の府省連携プロジェクトを設定することが必要だと思います。

例えば再生可能エネルギー、ネットワーク電力網としての洋上風力発電、介護、医療、産業、

災害等のロボットとか、再生医療、こういった将来の日本の経済成長にとって重要なテーマを総合科学技術会議が府省連携の束ね役として推進することが一つ。

それから、色々なところでイノベーション政策が議論されていますが、それぞれのテーマを見ますと全て正しいと思います。しかし、問題はそれぞれのテーマがどういった産業に育つか、どのぐらいの規模の産業になるか、それから雇用をどれだけ創出するか、こういった議論がなされずにテーマがラインナップされているのが問題だと思います。

ですから、二つ目は、その中で重要度に応じた優先順位をつけて、それで各府省から提案されたテーマに対して予算配分を行うことが総合科学技術会議の役目であると思います。

以上、これから具体的なテーマと、府省連携をどうやっていくか、そういったところをしっかりとやっていきたいと思います。宜しくお願い致します。

【山本科学技術政策担当大臣】

有難うございます。

内山田議員、どうぞ。

【内山田議員】

新任議員の内山田です。日々産業界に身を置いておりまして、国際競争の中で、科学技術のイノベーションがないと競争にも勝てないと思います。

我が国全体で見ましても、日本は資源が非常に乏しい国でございますので、産業立国、これを持っていく為には、科学技術イノベーションが不可欠です。優先順位が高いものは産官学の力を合わせて重要テーマとして、先程御説明がありましたように、一気通貫で取り組むというのが極めて重要であると思います。

一方で、10年後、20年後の日本のことを考えますと、非常に上流のところでは、科学者にある程度自由に色々な方面の研究をしてもらって、それをみんなで評価しながら、次の重点分野に繋げていくというような両にらみのことを将来の日本の為にやらなくてはいけないのではないかと考えております。

【山本科学技術政策担当大臣】

有難うございます。

青木議員、どうぞ。

【青木議員】

折角総理、また経済再生担当大臣、規制改革担当大臣が出席されていらっしゃるの、あえて一言言わせて頂きたいと思います。少子高齢化とか、再生医療とか、そういうのは日本だけが直面している問題ではなくて、世界の他の国も直面している問題ですが、日本は、それらの先進国です。それで、少子高齢化に対する新しい制度とか、再生医療の安全性基準は、これから世界が作っていかねばいけないルールで、未知の世界へ向う最先端を日本がいく必要があると思います。

同時に、山本大臣の資料にある「不合理なボトルネック」が出来るというのは、新しい環境の為に起こってくるのは当然であって、新しい社会と経済をこれから開拓していくために、規制改革も含めて、日本が制度やルールづくりでリードしていくチャンスではないかと思います。

【山本科学技術政策担当大臣】

有難うございました。

それでは、関係閣僚ということで下村文科大臣、甘利経済再生担当大臣、稲田規制改革担当大臣より御発言があるということなので、先ず最初に、下村大臣、どうぞ。

【下村文部科学大臣】

総合科学技術会議が今後科学技術政策の司令塔として再活性化されることを期待したいと思います。

その際、経済・財政、規制改革、安保・外交等の総合戦略として科学技術イノベーション政策を位置付け、官邸のリーダーシップを発揮する為の司令塔として運営していくことが重要であると考えます。

与党においても、司令塔機能強化の具体策が検討されておまして、これを踏まえつつ、政治主導で取り組むべき重要課題について、総合科学技術会議が各省の制度や政策を強力に誘導していくことに期待を申し上げたいと存じます。

文部科学省としては、総合科学技術会議が策定する戦略に基づき、研究開発施策の実施官庁として、我が国の競争力強化の為に取り組んでまいりたいと思いますので、宜しくお願い致します。

【山本科学技術政策担当大臣】

有難うございました。

それでは、甘利大臣。

【甘利経済再生担当大臣】

日本経済を再生させる担当大臣として発言をさせていただきます。

本年半ばを目途に取りまとめます成長戦略におきまして、科学技術イノベーションの強化というものが規制改革と並ぶ最重要課題でございます。この為に、産業競争力会議とこの総科とがしっかりと連携することが必要でありまして、山本大臣が産業競争力会議に常に出席をする議員として出て頂いておりますとともに、橋本議員に両会議の議員として議論の橋渡しということをお願いしているところでございます。

総合科学技術会議には、次の2点をお願いさせていただきたいと思っております。

1点目ではありますが、産業競争力会議では、健康長寿、エネルギー、次世代インフラなどの分野において、戦略市場創造プランを策定致します。

具体的には、将来のあるべき姿を戦略目標として設定をしまして、それに到達する為の道筋を見極めて、必要な技術及び産業や市場を特定するということでもあります。

この産業・市場の創造の為に、研究開発投資から規制改革に至る一貫通貫の施策を集中投入をする、所謂ロードマップを提示致します。これらの戦略における国家的な重要研究開発課題につきまして、産業競争力会議とこの総合科学技術会議との連携によりまして、その具体化を進めたいということです。

2点目であります。総合科学技術会議の司令塔機能の抜本強化については、産業競争力会議でも活発な議論がなされております。総合科学技術会議のもとで重点的な府省横断プロジェクトの予算策定から、配分、執行までを一元的に行うべきであると、或いは府省横断的に基礎から応用までを切れ目ない研究開発マネジメントが確立出来る体制を構築すべきであると、こうした指摘を民間議員から受けておる訳であります。

このような議論を踏まえまして、総合科学技術会議の機能強化の具体案について、産業競争力会議と連携をして、検討を是非進めて頂きたいという、以上2点お願いさせていただきます。

【山本科学技術政策担当大臣】

有難うございます。

稲田大臣、どうぞ。

【稲田規制改革担当大臣】

臨時議員として参加させて頂き、感謝申し上げます。

安倍内閣の成長戦略における規制改革は、その一丁目一番地であり、とりわけ科学技術イノベーションに係る規制改革は、重要な課題と認識を致しております。科学技術におけるイノベーションを実現し、新たな財・サービスの実用化やビジネスモデルの構築を促すことは、我が国の競争力を強化し、持続的な発展を図る上で不可欠です。

その際、障害となる規制が存在する場合には、規制改革会議が連携して解決に当たることも考えております。大胆かつ迅速に改革を実現出来るよう、頑張っまいります。

【山本科学技術政策担当大臣】

有難うございます。

今日は総理も息をのむような日程の中で、かなり無理をして時間を取って頂きました。

総理の時間も限られているものですから、少しせわしい運営になってしまって、失礼致しました。

今後、本会議を月一、二回程度開かせて頂いて、本格的に審議を進めてまいりたいと思いますので、是非また総理の御出席をお願いしながら進めていきたいと思ひます。

それでは、次の議題に移らせて頂きたいと思ひます。

ここからプレスが入ります。

(プレス入室)

【山本科学技術政策担当大臣】

本日は成長戦略に資する事例紹介ということで、筑波大学の山海教授においで頂いて、高齢者、障害者の自立に直接役立つロボット技術の実用化の取り組みについて、御紹介を頂きたいと思ひます。

山海先生、宜しくお願い致します。

【山海教授】

本日はどうも有難うございます。懐かしい先生方もいらっしゃって恐縮しております。

私は、この自民党政権の際に、色々基礎開発研究のところで御支援頂いた成果、これが今こういうふうに育ってきたということを少しお話しさせて頂きたいと思います。

今やろうとしていることは、我が国が直面する課題、例えば高齢化といった問題に対して、それを解決する手法そのものを、産業を興すための新しい革新技術としてそれを育てて、そして新産業創出をして、それを回すことによって、またその開拓型の人材をどんどん育成していくという、この3つの柱を中心にチャレンジをしまいいりました。

今、世界初のメイドインジャパンのロボット医療機器が世界に発信出来るような段階に入っております。それをやる為には、様々な規制や臨床試験も含めまして、必ずそういった世界に通用する新しい制度を育成するフィールドが重要となってまいります。しかし、これはこの国には実は殆どない状態で、残念なことに、海外にそういったものを頼る状況がしばらく続いておりました。

ロボットスーツHALの原理ですが、人が体を動かそうとすると、脳から体を動かささいという信号が出てまいります。そういう信号を使いながら、ロボットが意思で動いてくれるという、こういう不気味な装置が出来上がっております。

これは、世界初の技術で、これが世界の特許の中でも、例えば国内では最高の特許を選んで頂いております。今実演していますが、自分が体を動かさなくても、自分の意思でロボットが動いてくれる。これは運動とか、脳神経系に障害があったり、また誰でも高齢化に伴って、例えば脳神経系の疾患に必ずなっていくますが、私も含めましてここにいらっしゃる皆様も、3割、4割は、なっていく訳です。そういう方の場合に、脳からの信号さえとれば、これを使って脳神経系と末梢系をロボットの技術で繋ぎながら機能改善をしていくという事が出来る訳です。

またこちらにございますロボットのように、遠隔で使えるようなことも出来る、そういった技術もつくってまいりました。

これを見て頂くといいのですが、今世界の中で、医療機器については、法律に全ての国が全部組み込まれているので、こういうISO13485という医療機器をつくってもよいという、この国際認証を持っておかなければいけないのです。各国における認証取得数ですが、2008年では、ドイツ、アメリカがここにいます。そして、日本は9位におりまして、日本は薬も医療機器も全て海外から買わざるを得ない状況に今おかれています。

おもしろいことは、ここに中国があります。中国が2004年の段階で24しか国内に医療機器

を作る会社が無かったのが、わずか何年間かの間に1,100、そして1,500までいきます。

それがこれは法律に組み込まれますから、世界中チェックがありまして、とうとうこれが2011年、最新の情報、データでは3分の2が取り消しになっています。しかし、必ずこういった国は、物づくりについてのパラダイムシフトをしていきます。

つまり高品質で安いものを作る時代から、もっと高品質であることが法的に要求されて、更にそれが高い利益を生み出すもの、そういったものが世界の中で舵取りをされて動いていって、ドイツ、アメリカはこの3年間の間に更に1,000社ずつ伸ばしているという、そういう状況です。

私達も、こういう技術をただの技術にしないで、そして一つの産業にしていく為のチャレンジとして国際認証ということで、ロボット医療機器としては、世界で初めてこういったものをつくれる、そういう規格をきっちりと通過させます。更に、先日は福祉でも使えるような規格も世界で初めて許認可を頂戴しました。

ここに幾つか成果がありますが、脳卒中の患者さんも2回脳卒中を起こした方が歩けたり、50年ぶりで体を動かせるようになったり、或いは医薬品とロボットの組み合わせとか、再生医療とロボットの組み合わせという新しい、これまで無かったような医療を提案することが出来る訳です。

こちらにはドイツの予算でとうとうHALを使う為のセンターが出来てしましまして、これはとても残念なことです、分野を広げるという意味ではいいですけども、とうとうドイツ予算、またスウェーデンの予算でもこういったものを臨床的に進めていくということになっております。

とにかく競争力のある新産業創出とこういった最先端のロボット医療機器を世界展開しながら、社会実装拠点というものを準備することが、世界からこういうテクノロジーと人を集めてくる非常に重要なものになると考えております。

さて、今日はこのロボットを持ってまいりましたので、総理にこちらで見て頂きたいと思っております。このロボットは、今、担当者の彼と繋いでいます。彼が手を動かすとロボットが動きません。これでもし彼が手を動かさない状態、つまり体が動けないような状態であったとしても、ロボットが助けてくれるということになってまいります。

今回、私共が開発してきたものは、これぐらいの軽さになりまして、総理も持って頂ければと思っておりますが、こんな感じの重さに、大分軽くなってきました。これをいずれは服にまで組み込んで、そして人間の身体機能をきちんと改善していけるような、もっとより健康度の高い生

活、つまり寝たきりにならないようなものに仕上げていきたいと考えております。

こちらには、色々なロボットがありますが、こういった技術を横展開すると、災害対応ということで、例えばこのロボットは60キロのものを背負ってでも大丈夫なプロテクションジャケットを装着しています。放射線の被ばくもそうですし、それからケミカル物質、バイオ系のものもそうです。背中には最先端のクーリングシステムで冷却をしながら作業が出来るという、そういうものまでこの基礎技術が広がってきているということになります。

以上でございます。

【山本科学技術政策担当大臣】

有難うございました。

それでは、最後に安倍総理から御発言を頂ければと思います。

【安倍内閣総理大臣】

昨日、施政方針演説を行いまして、その施政方針演説で私達は再び世界一を目指します、と申し上げました。世界一を目指す為には何と言ってもイノベーションであります。安倍政権として、新しい方針として、イノベーションを重視していく。そのことをはっきりと示していきたいと思えます。

その意味においては、この総合科学技術会議を極めて重視をしておりますし、本来、この総合科学技術会議は経済財政諮問会議と同じように、最も重要な二つの会議のうちの一つであります。

御承知のように、第一次安倍政権におきましても、イノベーションを重視して、そしてオープンな姿勢によって、日本経済を力強く成長させていく方針を打ち出し、そしてこの会議において、「イノベーション25」を策定して頂きました。残念ながら、その後、民主党政権下においては、この会議が活発に開催されることはなかった訳でございます。やはり、イノベーションを推進していく為にも、科学技術においても、このイノベーションにあたっている人達に勇気を与えていく為にも、政治の上においても、これは極めて重要なのだというメッセージを出していく必要があるのだろうと思えます。

今後、なぜ日本のイノベーションは停滞してしまったのか、また或いは「イノベーション25」で何が出来て、何が足りなかったのかを徹底して検証し、その上で、「世界で最もイノベーションに適した国」を創り上げていきたいと考えております。その司令塔こそが総合科学

技術会議であり、新たに生まれ変わった新生総合科学技術会議とすべく私も全力で頑張っていきたい。皆様とともに汗を流していきたい。

先程もお話を頂きましたが、イノベーションに対して、国家的な支援を投入していくことは、新たな富を生んでいくことにも繋がっていく訳でもありますし、そして、そうであるということも、国民の皆様にも理解をして頂く、国民の皆様とコミュニケーションをしていくということも、とても大切なのではないのか、と思います。

本会議では、有識者議員の皆様から御提案のあった次の3点を、今年半ばまでに集中的に審議し、結果をまとめて頂きたいと思います。

第1に、科学技術イノベーション政策の全体像を示す長期ビジョンや短期の行動プログラムを含む「科学技術イノベーション総合戦略」を策定して頂きたい。

第2に、日本経済再生本部と連携して、成長戦略に盛り込むべき政策を、科学技術イノベーションの観点から検討して頂きたい。

第3に、総合科学技術会議の司令塔機能について、権限、予算両面でこれまでにない強力な推進力を発揮出来るよう、抜本的な強化策を具体化すべく検討して頂きたい。

先程山海先生のロボットスーツ（HAL）を間近に拝見させて頂き、メイド・イン・ジャパンの力とイノベーションによって、富を生み出すだけでなく、まさに人間が健康を取り戻す、そして豊かな人生を取り戻すことにも繋がっていくのだ、と思ったような次第です。

その意味におきましても、これから第一回を契機として、これによって日本の科学技術政策は変わったと、日本のイノベーションは変わったと思われるような会議にして頂きたいと思います。

(プレス退室)

【山本科学技術政策担当大臣】

有難うございました。

なお、参考資料1から5につきましては、机上のとおり配付させて頂いております。

第105回の議事録と本日の資料は公表致します。

以上で会議を終了致します。

皆様どうも有難うございました。